

ヘレニズム及び古代ローマの建造物・建築材料・測量道具における歪みの可視化とその応用：オステイア・ポンペイ・ヘルクラネウムを中心としたレーザー実測及び分析

小川，拓郎

<https://hdl.handle.net/2324/4784384>

出版情報：九州大学，2021，博士（工学），課程博士
バージョン：
権利関係：

氏 名	小川 拓郎		
論 文 名	ヘレニズム及び古代ローマの建造物・建築材料・測量道具における歪みの可視化とその応用 ―オスティア・ポンペイ・ヘルクラネウムを中心としたレーザー実測及び分析―		
論文調査委員	主 査	九州大学	教授 堀 賀 貴
	副 査	九州大学	准教授 末廣香織
	副 査	九州大学	准教授 志賀 勉
	副 査	久留米大学	教授 池口 守

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、レーザー実測技術によって取得された三次元点群データを用いることで、図面を介した際に歪みとして排除されてしまう、古代ローマ建造物を中心とした造形のわずかな湾曲や自由曲面を、科学的根拠に基づいて共有可能な情報とし、統計的、定量的に分析したものである。イタリアにおける代表的な古代ローマ遺跡であるオスティア、ヘルクラネウム、ポンペイでの都市史、建築史的、あるいは考古学的調査に加えて、ローマのラテラーノ地区で出土した新たな遺構、さらにはエジプト、アコリス遺跡近郊の古代採石場を手がかりとしながら、さまざまスケールの遺構、遺物についての造形過程の復元考察を行っている。その成果は、新たな研究方法の提示を通じ、建築史学だけでなく、考古学、人類学、歴史学にも新たな展開をもたらす可能性が示された点において価値ある業績であると認められる。よって、本論文は博士（工学）の学位に値するものと認める。